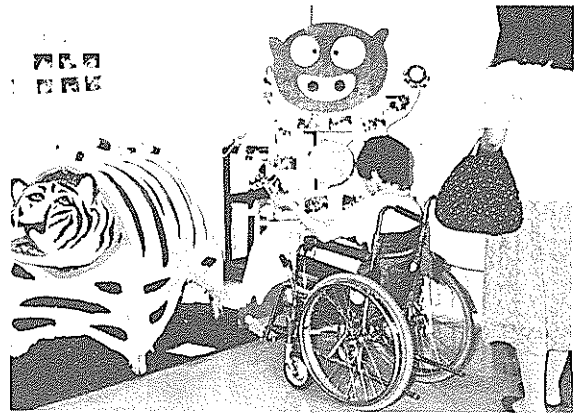


# 劇や歌を熱演

## ～土佐希望の家祭り～



園生らの苦心作約200点を展示

目ごろの訓練や指導の成果を多くのの人たちに見てもらおうと六月十四日と十五日、小籠の重症心身障害児施設「土佐希望の家」(吉浦一雄園長)で、第十二回土佐希望の家祭りが開かれ、園生の父母や市民ら約三百人が訪れました。これは六月一日の開園記念日に合わせて毎年開催しているもので、岡豊高校や高知大学のボランティアの皆さん約五十人も参加。展示やステージなど盛りだくさんの行事を楽しみました。

展示会場には、園生や職員が一ヶ月から三ヶ月、中には去年の九月から取り組んだ粘土細工や篠細工、エプロン、絵などがずらり。どの作品にも園生たちの苦心の跡が見え、訪れた人たちは手に取って熱心に見入っていました。特設ステージでは、十四日のマジックショーや人形劇に続いて、十五日には「アラジンと魔法のランプ」などの劇や歌などを上演。園生や職員の熱演に、会場を埋めた百人余りの園生や市民の皆さんから盛んな拍手が送られていました。



ステージでは歌のメドレーも行われた

高知空港周辺整備対策協議会西内四郎会長「六十一年度総会が六月十二日、空港会館で開かれました。同協議会は、空港拡張に伴い残された農地の生産性向上のため、農道や用排水路など周辺整備を促進、調整しようと県と南国市が設置し、五十三年度から六十年年度までの八年間にわたり二十八億五千万円で整備事業を進めてきました。総会には、小笠原市長ら関係者六十人が出席。前年度の事業実績、決算報告など、これまでの事業実績を承認。一部の排水対策事業や騒音対策、緑地整備事業を除いては当初の目的を達成したため、解散することになりました。その後、感謝状の授与式が行われ、中内知事、小笠原

## ほぼ目的を達し解散 ○高知空港周辺整備対策協議会○

市長が「高知空港の整備、ジェット化は高知県にとって最大の事業でしたが、皆様方の絶大な協力とご理解によって早期完成することができました。心からお礼を申し上げます」と、あいさつ。続いて、中内知事、小笠原市長から協議会委員ら一人一人に感謝状と記念品が手渡されました。



市長が一人一人に感謝状を手渡した